

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月28日

【評価実施概要】						
事業所番号		3870400227				
法人名		医療法人 青峰会				
事業所名		グループホーム 夏みかん				
所在地		八幡浜市八代4 5 番地 (電話) 0894-24-3334				
管理者		広瀬 浩美				
評価機関名		特定非営利活動法人 JMACS				
所在地		松山市千舟町六丁目1－3チフネビル501				
訪問調査日		平成20年10月16日	評価確定日	平成20年11月28日		
【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)						
(1) 組織概要						
開設年月日		平成13年4月1日				
ユニット数		1 ユニット	利用定員数計	9 人		
職員数		9 人	常勤	7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.0人		
(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)						
家賃 (平均月額)		40,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる		
敷 金		有 (円) (無)				
保証金の有無 (入居一時金含む)		有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無		
食材料費		朝食	300 円	昼食	300 円	
		夕食	400 円	おやつ	0 円	
		または1日当たり 1,000 円				
(3) 利用者の概要 (平成20年10月1日現在)						
利用者人数		9 名	男性 4 名	女性 5 名		
要介護1		2 名	要介護2	2 名		
要介護3		2 名	要介護4	2 名		
要介護5		0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均	85 歳	最低	78 歳	最高	97 歳
(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算						
指定	(あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護				
指定	あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護				
届出	あり・(なし)	短期利用共同生活介護				
加算	(あり)・なし	医療連携体制加算				

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】	
●地区の防災会長さんからの依頼を受け、事業所前の駐車場は、地域の自主防災の避難場所となっている。地元中学生の職場体験受け入れの際には、市の担当者の方が訪れ、認知症介護についてお話いただいた。又、地域包括支援センターの職員とともに管理者は、地域の老人会で「認知症について」お話をされた。 ●お孫さんからのお手紙に、お返事を出される方がおられる。又、新聞を読む方や花を生けてくださる方もいる。 ●年1回、市全体の災害訓練が行われており、事業所では、地域の自主防災組織とともに参加している。又、事業所独自でも年2回、避難訓練を行い、消防署の方の協力をいただいている。地域の方から、「何かのときは協力する」と声をかけていただいている。	
【質向上への取組状況】	
▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目:外部4)	
・ 前回の評価結果を受け、地域への取り組みを積極的に行われた。	
▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目:外部4)	
・ 全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめられた。職員は、日々のケアを振り返り、利用者への接し方や声かけ等、改めて考える良い機会になったと話されていた。	
▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目:外部4, 5, 6)	
・ 会議に参加していただくメンバーを固定せず、地区長や婦人会、公民館長の方、又、中学生等にも参加いただき、会議をすすめておられる。会議では、利用者の日々の様子を報告され、事業所内を見ていただく等、事業所を理解していただけるよう取り組まれている。地域情報を得て行事へも積極的に参加されている。	
▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目:外部7, 8)	
・ 運営推進会議時、ご家族にも数名出席いただき、ご家族の立場からの意見をいただいている。又、ご家族の来訪時には、利用者の日々の様子の写真をアルバムにしてお見せしている。事業所新聞では、お誕生会や行事参加時の様子等を写真入で載せておられる。	
▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目:外部3)	
・ この1年、特に地域との交流に力を入れて取り組まれた。回覧板をまわしていただき、地域の情報も得られるようになった。又、公民館長さんの働きかけもいただき、夏祭りでは、利用者とともに作ったお寿司を販売された。中学生の職場体験を受け入れておられる。	

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホーム 夏みかん

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

広瀬 浩美

評価完了日

平成20年10月1日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			「認知症があっても地域の中であたりまえに暮らしながら人間の尊厳を大切に暮らしていく」という理念を掲げている	※	今後も利用者様がホームで暮らしやすくなるための理念になっているか振り返りの機会をもちたい。
			(外部評価)		
			事業所は、開設当初からの理念を大切に、地域に溶け込んだ暮らしを支援することを目指しておられる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			理念の実践にむけて個々で目標を立て、年2回、振り返り、管理者と話し合いをする機会をもっている。	※	今後もスタッフ全員の理念に対する考えや取り組みについて話し合いができ、管理者を含め、スタッフ全員が共通の理念のもと、援助ができるようにしたい。
			(外部評価)		
			理念に沿った目標を各自で掲げ、年2回、管理者と職員が話し合い、ケアを振り返るようにされている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			運営推進会議を通して、理念を伝えている。また、玄関やリビング内に掲示し、来所されたときに見ていただけるようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 外出の際、出会った方へ挨拶をしたり、一言お声掛けさせていただいているが、気軽に立ち寄っていただける機会はない。	※	立ち寄っていただけるきっかけ作りや、玄関は入りやすい雰囲気になっているかをスタッフ全員で考えたい。また、散歩や、近所へ出かける際、顔なじみになれ、利用者様と立ち話ができる様な関係作りができたらいと思う。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 地域の夏祭りに参加をさせて頂き、打ち合わせや出店を一緒に行った。また、外出の際、挨拶をしたり、近所の商店へ買い物に行き交流を図っている。また、バザー等催しの時に声をかけて頂いている。お祭りの時には牛鬼・おみこし・亥の子などきて頂いている。また、地域の避難訓練に参加をした。 (外部評価) この1年、特に地域との交流に力を入れて取り組まれた。回覧板をまわしていただき、地域の情報も得られるようになった。又、公民館長さんの働きかけもいただき、夏祭りでは、利用者とともに作ったお寿司を販売された。中学生の職場体験を受け入れておられる。	※	今後も地域との交流を続けられる様、活動していきたい。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域の認知症勉強会に参加させていただき、認知症の方への対応について話をさせて頂く。また、地区の公民館にホームのパンフレットを置いて頂いたり、ホームで、認知症介護に関するご相談ができることをお知らせしている。	※	相談に來られた例はないが、運営推進会議を通して、ホームはどういう事を求められているかを話し合いたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 管理者だけでなく、職員全体で評価を行い、日頃のサービスの振り返り、また、よりよいサービスを提供するための改善点など考える機会としている。 (外部評価) 全職員で自己評価に取り組み、管理者がまとめられた。職員は、日々のケアを振り返り、利用者への接し方や声かけ等、改めて考える良い機会になったと話されていた。前回の評価結果を受け、地域への取り組みを積極的行われた。	※	スタッフ全員が情報の共有をはかり、自分以外の意見を知り、改善方法を考える機会になればいいと思う。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
			運営推進会議では2か月間の活動報告、評価を受けることや評価の結果や今後の取り組みについて報告する。	※	報告だけでなく、出席者からのご意見を頂き、サービスの質の向上に努める。
			(外部評価)		
			会議に参加していただくメンバーを固定せず、地区長や婦人会、公民館長の方、又、中学生等にも参加いただき、会議をすすめておられる。会議では、利用者の日々の様子を報告され、事業所内を見ていただく等、事業所を理解していただけるよう取り組まれている。地域情報を得て行事へも積極的に参加されている。		現在は、ご家族のご都合もあり、土・日曜日の会議開催となっており、市の担当者は欠席されている。今後、いろいろな立場の方の参加をいただき、意見交換を行えるよう日程等についても工夫をされてほしい。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)		
			1か月に1回、ホームの利用状況や入退居者の報告、事故発生時には報告書を提出している。また、2か月に1度、市内グループホーム連絡会があり、参加をして日頃の援助等取り組みについて情報交換、市からの助言を頂いている。		
			(外部評価)		
			地区の防災会長さんからの依頼を受け、事業所前の駐車場は、地域の自主防災の避難場所となっている。地元中学生の職場体験受け入れの際には、市の担当者の方が訪れ、認知症介護についてお話いただいた。又、地域包括支援センターの職員とともに管理者は、地域の老人会で「認知症について」お話をされた。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
			現在制度の勉強会に参加をしているが、活用ができていない。	※	今後も必要時に対応できるよう、勉強会へ参加し、知識の習得につとめる。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
			虐待防止に関する資料をスタッフへ配り、内容を確認している。また、身体援助など、利用者様に関わる際、利用者様の表情（おびえているような表情はないか）、身体に不信なあざや傷はないかを観察する。	※	身体観察だけでなく、利用者様の言葉をよく汲み取っていききたい。また、自分の発言や無意識な行動も利用者様にとって嫌な思いをさせていないか充分気をつけていきたい。虐待防止に関する勉強会は1度で終わらず、再確認の機会を持ちたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要事項説明書をつけて、サービス提供前に説明をさせていただいている。また、利用料やプライバシーに関することは別用紙を作り、詳細を説明している。入居前に、利用者様や御家族様にホーム内の見学や説明をしている。質問等の受け付け責任者や連絡先を契約書内に明記している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者様と話をしながらサービスを提供し、何気ない会話の中でも、ご希望等があれば、納得されるまで話をお聞きし、介護記録に記入し、ケアプラン立案時にいかしたり、スタッフ会でご希望の実現のために話合いの機会を持っている。	※	利用者様の意見が汲み取れるよう、じっくり話を聴く。また、改善点へはスタッフ全員が同じ支援ができるよう、情報の共有を続けておこなっていききたい。そして、市より、相談員が来所されるため、入居者様より相談等あれば情報交換ができる機会を持ちたい。
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 現在の暮らしぶりについて、面会時に報告を行っている。新聞を2か月ごとに発行しているが、発行が遅れることがある。職員の異動などがたびたびあり、報告が遅れたことがあった。職員の異動については、ご家族が来所されたときにご挨拶をさせていただいている。	※	新聞が定期的に発行でき、面会に来られない御家族様へもご報告等が遅くならない様にする。また、御家族様が面会に来られた際、利用者様とゆっくり過ごして頂くことを優先し、変わった出来事や日々の生活状態をお伝えしていきたい。
			(外部評価) 運営推進会議時、ご家族にも数名出席いただき、ご家族の立場からの意見をいただいている。又、ご家族の来訪時には、利用者の日々の様子の写真をアルバムにしてお見せしている。事業所新聞では、お誕生会や行事参加時の様子等を写真入で載せておられる。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご意見箱を設置したり、面会時にお話を聞かせて頂けるようお声掛けをさせていただいている。また、外部の苦情受付機関を重要事項説明書に記載している。そして、苦情等で利用者様に不利益が生じないこともお伝えしている。	※	思いや苦情が言いやすい雰囲気作り、職員が御家族と顔なじみになれるよう、お話をさせていただく機会を積極的にもつようにする。退居時にアンケートを実施し、率直なご意見を伺わせていただくようにする。
			(外部評価) ご家族の来訪時に、意見をいただけるよう働きかけておられる。	※	今後、事業所では、ご家族を事業所の行事にお誘いする等、交流を深め、意見を出しやすい雰囲気作りに努めていきたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) スタッフ会や、折に触れ職員が管理者に意見や提案を伝えている。会で改善点や、改善したことへの継続ができているか話し合いをしている。また、管理者は直属の上司に運営状況を伝えている。しかし、運営者がホームを訪れることがなく、運営状況を把握できていない。	※	スタッフ会を通じ、他スタッフの様々な意見を聞き、色々な方法で改善していければいいと思う。また、スタッフ全員で決定、情報の共有することで、質の高い支援へつながっていったらいいと思う。また、運営者に直接管理者が運営状況や意見、提案が伝えられる機会がもてるよう直属の上司に提案する。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 利用者様や御家族様のご希望に沿えるよう勤務の調整をしている。しかし、職員数の不足により、管理者が休日等で出勤し、対応していることが多い。	※	職員の増員については、直属の上司に相談しており、検討中である。行事があるときはスタッフが余裕をもって動き、利用者様が楽しんで頂ける様、また、通常の日も利用者様の急変時に対応できる人員が確保できればいいと思う。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 異動、退職が頻繁にあり。職員の交代があるときは利用者様へ管理者と本人よりご挨拶し、お知らせしている。また、利用者様と新入職員が円滑にコミュニケーションがとれるよう、スタッフは利用者様お一人一人と話しながら話題作りができる様にした。	※	退職者より、「介護の仕事が思っていた仕事と違っていた」と言われることが多いため、人事の担当者が配属前に、本人の希望や適正を知り、グループホームでの仕事がどのようなものであるか説明ができるようお願いする。入社時に、新入職員が馴染むまで、他スタッフも交え利用者様と関わる機会を持つことができる様配慮したい。
			(外部評価) 職員の異動については、運営推進会議時、理由等についても説明されている。事業所新聞には、異動する職員からのコメント等も載せておられる。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 入社時に介護技術等の研修・年1回、入社3～4年の職員を対象にした研修・年2回の管理者研修がある。その他、グループホーム協会や、その他研修の案内をしたり、法人内のグループホームと協力し勉強会を開催している。		
			(外部評価) 法人での勉強会が月1回行われ、職員も順次参加されている。又、外部研修の案内を掲示し、参加費や交通費を法人が負担し、受講を職員に薦めておられる。	※	今後、職員も積極的に外部研修に参加し、現在行っているケアや業務の質を高めていきたいと考えておられた。さらに、外部研修で得た知識や技術を職員間で共有して、ケアを実践できるような仕組み作りも期待される。

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)		
			研修や市のグループホーム連絡会で同業者との交流を図り、情報交換を行っている。	※	管理者は会の出席を行っているが、職員にも、情報交換ができる機会を持っていただき、積極的に参加できるよう声掛けをしたい。
			(外部評価)		
			法人内のグループホームと交流されており、又、管理者は、市で開催される研修会等に参加し、他事業所と情報交換され、介護計画書作成の工夫をされた。		さらに、職員も他事業所と交流できるような機会を作りたいと考えておられた。貴事業所のさらなるケアの質の向上に向けて、今後、ネットワークを広げていかれてほしい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価)		
			法人内で忘年会や親睦会の案内がある。	※	勤務時間内に休憩時間がとれないことや休憩場所がない。また、休日に出勤することも多く、ストレスの軽減ができない。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価)		
			有している資格や経験年数は把握しているようである。資格取得後は役職に就くなど能力が充分発揮できる環境作りができているようである。勤務状況を直属の上司へ定期的に報告している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価)		
			入居後より、ケアプランの作成を通じて、利用者様のご希望やお気持ちをお聞きする。また、利用者様がご自分のお気持ちを伝えられない方は昔からの生活歴を御家族様からお聞きし、その情報を参考にしたり、安楽に暮らせる方法を考えサービスを提供する。	※	じっくりと話を聴き、安心して頂ける様、聴く姿勢で利用者様の不安を理解し、改善すべきことは改善できる様にしたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ご相談時に状況をお聞きしたり、ホームのサービス内容や、設備を見学して頂く機会をもうけている。面会時に明るい対応に気をつけ、御家族様から親しみ・話し掛けやすい雰囲気作りをした。また、話されたことを真剣に聞く姿勢に気をつけた。	※	今後もご家族の方が話しやすいよう、明るい対応に気をつけ、落ち着いて話ができて、真剣に話を聞く姿勢でいられるよう気をつけていきたい。
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) グループホーム利用後、在宅で介護ができる状態になったと御家族より相談があり、ご家族が在宅でご本人様と過ごして頂けるよう、ご希望をお聞きしながら、介護サービスなどの紹介や、サービス利用決定後、連絡調整を行った。	※	ご相談があった際は、ご本人や御家族にとって一番よいと思われる対応ができる様話をし、理解していきたい。今後も近隣のサービス事業所やサービス内容の把握に努め、グループホーム以外でのサービスが必要な時に、相談に応じれる体制を作りたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 現在は見学後数日で入居されることが多く、馴染みながらのサービス利用はできていない。入居後にできるだけ早く馴染んで頂けるよう、職員や他利用者様と自己紹介ができる機会を作ったり、御家族様が落ち着くまで付き添いをしていただき対応している。 (外部評価) 母体病院からの入所が多く、入居前には、職員がご本人を訪ね、ご本人ご家族とゆっくりお話しされている。	※	現在、病院から退院後、認知症や身体不自由のため、独居で生活できない方が入居されている方が多い。病院より、入居希望されている方の連絡があったら、退院まで定期的に管理者が面会し、顔なじみになる様にしているので、継続し行っていく。入居後も、他利用者様との間にスタッフが入り会話ができるなど、お一人で緊張する場がないよう気をつけていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 家事が得意な方と一緒に調理をして、下ごしらえの方法を学んだり、園芸が趣味の方より、花の育て方、管理の方法を学ぶなど、コミュニケーションをとりながら、また、相談しながら作業を進めるようにしている。ご協力を得られたり、作業と一緒にしてくださったことに対して、「ありがとうございます」と感謝の言葉をかけるようにした。 (外部評価) 職員は、夏祭りで販売したお寿司作りを利用者に教えていただきながら作られた。又、畑の作物の育て方のアドバイスをいただいたり、時に、利用者にエプロンの紐を結び直していただくこともある。	※	今後も、職員が単独で作業するのではなく、利用者様と一緒にできる工夫をし、何気ない作業でも共にするという事を気をつけていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 入居前の生活や趣味などをお聞きしたり、外出、医療機関への受診の協力をお願いしている。また、ご本人の好きなおやつと一緒に食べ話をして過ごされることもある。	※	外出を一緒にさせて頂く機会を作れなかった。外出レクリエーションでは、一緒にご参加いただけるよう声掛けを行いたい。また、利用者様の細かい出来事を御家族様へお伝えし、楽しそうな表情、つらそうな表情等感情を細かく知って頂き、御家族と思いを共有し共に支え合う関係作りをしたい。
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族の面会時にご本人の暮らしぶりを報告（特に活躍されたことなど）している。	※	遠方の御家族へ報告が遅れることがある。定期的に報告し、ご本人との関係が途切れない様支援したい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域行事に参加し、なじみの人と出会い、話をして交流がもてるようにしている。また、なじみの理容院が理容でき、また、理容師さんのご協力でホームにきていただき、散髪をし、話をして頂ける機会を持っている。また、主治医の協力にてなじみの歯科医院・眼科の利用をしていただける。	※	さらに、ホームへ気軽に訪問して頂ける様声掛けをする。御家族より、了承を得て、手紙や電話で交流を持てる支援をしたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) スタッフが声をかけ、利用者様同士で声をかけあって食事をとって頂けるようにしたり、難聴・失語症などでコミュニケーションが円滑にいかない場合は職員が間に入っている。また、誕生会ではお祝いの言葉・お礼の言葉を頂きながら、コミュニケーションをとっている。	※	利用者様同士が一緒に何かの作業をすることで自然に助け合いができる場面作りをしていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 契約終了後でも、「庭にいちじくがなったので」とホームにきて利用者様に差し入れをしていただいたり、話をしていただいている。また、入院のため、退居された方へ、お見舞いへお伺いさせて頂いている。	※	今後も退居されても気楽に遊びにきていただけるようお声掛けしていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			ケアプラン立案時、センター方式を利用し、暮らしの希望などをお聞きしている。思いが伝えられない方へは、入居前の生活を参考にしたり、ご本人が心地よく生活ができる方法を考え、御家族へご同意いただき、実践している。	※	今後も利用者様の意向を伺い、ご本人の意思で何かできるように努めていきたい。また、意思疎通が困難な場合も、ご本人の負担にならない様声掛けをしたり、表情を見ながら意向の把握をしていきたい。
			(外部評価)		
			日々の会話の中から、利用者の思いを汲み取ることができるよう努めておられる。		
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			入居前に生活歴・習慣・好みのものなどお聞きしている。お話を資料として作成し、プライバシーの保護に努めながらスタッフと情報交換を行っている。	※	作成した資料をそのままにせず、ご本人や御家族からの情報をどんどん追加していきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			利用者様の「できること」を探し、できることを生かした生活ができるよう配慮している。また、声掛けをしながら・休憩をはさみながらと無理のないように生活をしていただいている。		毎日の観察をし、いつもの生活ができる様、また、お一人お一人のできることの範囲が広がるよう、努めていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			日々の観察に努め、よくおられる場所・される作業・通常のバイタルの値を知り、現状の把握をした。そのなかで、ご本人が暮らしていくために必要なケアをスタッフより提案し、ご本人や御家族のご希望もふまえ、介護計画を立案している。	※	計画作成時からご本人や御家族が立会い、話をしながら、行う様にしたい。また、計画が出来上がったら、スタッフ全員が計画に目を通し、同じ支援を行える様に努めていきたい。
			(外部評価)		
			介護計画と日々の記録が連動するよう工夫され、職員間で情報が共有しやすくなったと話されていた。介護計画作成時には、ご家族にもご意見を聞きながら作成されている。		

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うと ともに、見直し以前に対応できない変化が 生じた場合は、本人、家族、必要な関係者 と話し合い、現状に即した新たな計画を作 成している	(自己評価)		
			介護計画は1か月ごとに見直しを行っている。医療機 関にかかる必要が生じた場合、御家族やかかりつけ医 に相談している。	※	落ち着かない方など、ホーム内で対応困難な利用者様 に対し、抱え込みすることがあった。早期に御家族へ 相談できればよかった。ホーム内で対応できること、 できないことを見極め、積極的に御家族へ相談できる ようにしたい。
			(外部評価)		
			毎月、介護計画について評価を行い、状態変化に応じ て見直しを行っておられる。		
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づき や工夫を個別記録に記入し、情報を共有し ながら実践や介護計画の見直しに活かして いる	(自己評価)		
			利用者の暮らし振り、職員のかかわり方を時間ごと に記録している。	※	出来事全てを記入しているため、どこが重要なかが 分かりにくい。また、ケアの時間を削っていることも あるので、記録の方法・申し送りの方法を再検討する 必要がある。
			(外部評価)		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応 じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な 支援をしている	(自己評価)		
			認知症対応施設であることから、認知症の進行を穏や かにする、また、身体の不自由な方へ、必要な介護を 提供・外出援助など行っている。		
			(外部評価)		
			外出時に、ご自宅や馴染みの場所へ立ち寄ってみるこ ともある。		

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 緊急時に対応できるよう、消防署のご協力で避難訓練や、救命救急の講習を行っている。また、地域の中学生がホームにこられ交流する機会を持っている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 退居の際、自宅で生活ができるよう、希望されるサービス事業者と話し合い、情報提供をしている。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 現在、権利擁護等必要が無い為、協働できていない。	※	協働の必要がない時でも日頃より情報交換を行い、連携をとる。
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 入居時にご希望の医療機関をお聞きし、把握しておく。特に指定のない場合はホームの連携医療機関、夜間の連携医療機関を御紹介している。また、月に1回、往診にきていただき、状態を看ていただいている。 (外部評価) 母体病院からは月1回往診がある。利用者・ご家族の希望する歯科、眼科の通院には、ご家族か、ご家族の都合によっては職員が同行されている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 認知症に詳しい医師が月に1回往診にきていただき、利用者様の心配事・訴えを聴き、アドバイスいただいている。また、日頃から利用者様の状態報告し、相談等ある時は対応していただいている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 日頃より利用者様の状態報告を行っている。また、月2回ホームへ来所、利用者様の状態観察、話を聴いたり介護職員の相談にのっていただいている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は情報提供書を病院に届け、定期的に洗濯物を取りにいったり、必要な物品を持っていきながら、お見舞いし状態の把握に努めている。また、病棟の職員と情報交換を行い、退院に向けて援助を行っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 入居時に重度化した際、どこで過ごしたいか・どのように過ごされたいかなど、希望をお聞きしている。しかし、入居時に話し合いをするだけで、定期的に話し合いの機会が持てていない。	※	重度化や終末期について、ご本人や御家族のお気持ちが常に変わることを予想し、1度だけの話し合いにならず、定期的にお気持ちを聞かせていただく場をつくりたい。また、ホームの職員は利用者様や、御家族様がホームで過ごしたいというご希望にも対応できるよう、勉強できる機会作りをしたい。
			(外部評価) 利用者の状態によって、職員間で看取りについて話し合うことがある。	※	さらに、ご本人やご家族も重度化時、終末期のことについては不安な点でもあり、早い段階から話し合うような機会を作ってはどうか。又、職員間での方針の共有にも取り組まれてほしい。
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 状態が急変した場合、病院で過ごされることが多いが、ホームの機能をよく知っておられる主治医が、できるだけなじみの環境で生活ができるよう職員に指示をされている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) ホーム内での暮らし振りを書類にまとめ、関係者へ説明を行っている。		

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価)		
			記録などの個人情報、保管場所を決めている。また、トイレ誘導など、羞恥心を伴いやすい場面では声のトーンを落とし声掛けをしてプライドを傷つけない様に対応している。	※	今後も声のトーンや、言葉かけ（ご本人を傷つける声掛けになっていないか）を気をつけたい。
			(外部評価)		
			職員が居室に入る際には、必ずノックやご本人に声をかけておられる。又、トイレ誘導時の声かけも小声で周りにも配慮されていた。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価)		
			利用者様によって説明や質問の方法を変え、ご希望があらわしやすきように対応している。また、話したいことが伝えにくい方へはせかさず、目線を合わせ、ゆっくり話をしている。	※	どのように声掛けをすれば意思を引き出せるか工夫し、分かりやすい質問等で切る様に努めたい。
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)		
			外出等ご希望があれば沿えるよう対応している。ご自分でご希望を伝えられない時にはこちらからお誘いしてみる。	※	利用者様の希望を大切に行動・支援し、また、利用者様の休み、のんびりできる時間も大切にしながらスタッフと共に作業を行い、楽しみながらという事に気をつけてご本人のペースを大切に過ごせる様に努めたい。
			(外部評価)		
			調査訪問時、利用者は、職員とおしゃべりをされたり、洗濯物たたみやテレビを楽しまれる等、居間の各所で過ごしておられた。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 整髪はできる範囲でおまかせをしたり、洋服は一緒に選び着用して頂けるようにしている。また、男性は地域の理容店を活用したり馴染みの理容師さんがホームへ来所し、話をしながら散髪をされている。	※	整髪はご本人でできる様に支援し、衣類も選んで頂けるよう努める。また、買い物やおしゃれを好む方がいらっしゃればショッピング等外出もできたらいいと思う。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 材料を切るなどの下ごしらえ・配膳を一緒に行っている。また、行事や誕生日の献立を一緒に立てたりメニュー表を書いて頂いて食事への期待をもっていたいく。 (外部評価) 利用者は、食事の配膳や片付け等、できることを無理なくされている。現在は、職員が利用者の好み等を聞きながら献立を立て、職員が食事作りをされている。おやつは、利用者とともに作られることもある。誕生日にはお好きなメニューを作って喜んでいただいている。居間に流し台が設置されており、利用者のご自分の食器を洗っておられた。	※	献立作りの際、利用者様の好きなメニューを取り入れることができる様、情報収集をしていきたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) ご家族様の協力で、ご本人の好みのおやつを提供できるときがある。お酒は体調面やA D Lの問題（足元が不安定になるなど）で提供できていない。おやつを取っていただくときは何種類かある中から選んで頂く。また、飲み物も熱いお茶・冷たいお茶など選んでいただいている。	※	おやつも利用者様の嗜好に合うものがあるよう、種類を確保しておく。また、一緒に買い物へでかけたり、おやつ作りへ参加を促し、楽しみながらおやつが食べられるようにしたい。
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) オムツを使用されている方が入居されたら、排泄パターンを知り、トイレ誘導し、オムツに頼らないよう支援している。	※	お一人お一人の排泄パターンを知り、気持ちよく排泄できるよう努めたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			現在、状態が急変した時に十分な対応ができないことや、入浴介助にあたる職員が確保できないため、夜間の入浴は行っていない。しかし、午後から夕方までお声がけしながら入浴介助を行い、せかさずゆっくり入浴できるように対応している。	※	現在は夜間の入浴は怖いと言われ、夜の入浴を希望されている方はいらっしゃるが、今後夜間の入浴にも対応できるよう運営者との話し合いを持つようにする。
			(外部評価)		
			ご自分の好みのシャンプーを使っている方や、仲のよい方同士で入浴を楽しむこともある。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			職員の都合で就寝時間を決定せず、テレビ観賞や話をしてゆっくり過ごし、眠たくなった時に休まれるように対応している。就寝時の室温を調整したり、パジャマへ着替えられるよう対応している。車椅子で過ごされる方へ声掛けを行いながら、横になって休む時間を作っている。	※	夜間トイレへいかれない方の排泄パターンを知り、濡れるのを予防したり、オムツの交換をすることで、安眠の妨げにならないように工夫したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			生活の中で、その方の「できること」を見つけ、活動をして頂く。参加して頂いたことに感謝し、お礼を伝えている。また、天候によって散歩・近所へ買い物をして、気晴らしになるようにしている。	※	お一人お一人が毎日何か楽しみながらできることを注意しながら、無理なく張りのある生活ができるようにしたい。
			(外部評価)		
			お孫さんからのお手紙に、お返事を出される方がおられる。又、新聞を読む方や花を生けてくださる方もいる。		
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			ご家族に了解を得て、小遣いを利用者様が持っていいらっしゃる方がおられる。歯科診療代・日用品代等の支払をされている。お金の取り出しに不自由があれば職員が取り出し、支払った金額とおつりをその都度ご本人に伝え、確認をいただいている。外食をしたら、お金を手渡し、支払いをお願いし、ホームを代表して支払う機会を作っている。	※	今後も買い物等機会を作り、お金を所持したり、使う場面づくりをしていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又 は取組みを期 待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			天候を見ながら声掛けをし、散歩をしている。また、畑へ出て野菜の様子を見たり、洗濯物の取り込みを行っている。	※	あまり外へ出ることを希望されない方へも安心して外で気分転換がはかれるよう、日光浴をしながらおやつなど楽しめる場面作りをしたい。
			(外部評価)		
			月1回、季節ごとの花見や母体法人グループの運動会等を楽しんでおられる。食材の買い物に出かけておられる。	※	外出を好まれない利用者もおられるとのことであるが、外出したくなるような雰囲気作りや声かけ等、工夫を重ね、日常的に外に出て楽しめるような機会を増やしていけることが期待される。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			現在、個別に買い物の支援やドライブを行っている。ご家族様が利用者様と共になじみの場所へ外出する機会を持てている。	※	日頃より、行きたい場所をお聞きしたり、何気ない会話のなかでの一言も聞き逃さないようにし、情報収集をして御家族様へお声掛けし、外出支援ができるようにしたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			年賀状を出したり、手紙を頂いた方へお返事が出せるよう支援をしている。また、その際、住所など、宛先が書けないなど、できないことを支援している。	※	御家族の方へ協力を促し、利用様が淋しさを感じた時など、気軽に電話ができたり、手紙やハガキを送るなどの支援ができる様にする。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			ホームへ来所された際は椅子やお茶を準備して、ゆっくりくつろぎながら過ごして頂けるようにしている。また、来所された際、こちらからご挨拶をしてきていただいたことに感謝し、スリッパをすすめ、入りやすい雰囲気作りをしている。	※	挨拶をきちんと行い、気軽にこられる雰囲気作りを継続して行いたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束について、資料を配布し、紹介をしている。直接からだの自由を奪うだけでなく、日中玄関の施錠もしてはいけないことも理解している。	※	拘束の必要な場合は御家族・ご本人・主治医と話し合い、拘束しないことでどのようなリスクがあるか、本当に拘束が必要なのかを話し合いたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は玄関や居室に施錠をしていない。見守りし、利用者様がどのように過ごされているかを確認している。 (外部評価) 日中は玄関や居室に施錠をせず、職員は、利用者個々の過ごし方を把握し、見守るようにされている。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 以前お一人で外へ出られ、転倒したことがあり、二度とないように再発防止に向けて話し合いをする。現在フロア内に職員がいるようにし、様子を見守っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 洗剤類・包丁・薬などは場所を決めて保管している。爪きりやハサミはご本人の状態を見ながら管理をお願いしている方もおられる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 法人内のグループホーム等で勉強会を開催し、知識を学んだり、消防署の協力にて避難訓練を年2回行い、消防署よりアドバイスをいただいている。また、環境整備を行い、床が滑らない様、つまづく原因になるものを置かないようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己 評価	外部 評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は 取組みを期待 したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 救命救急法の勉強会への参加、また運営推進会議で事故発生時の対応の説明をさせていただき、アドバイスいただいている。また、急変時の対応を簡単にまとめ、電話機の横に掲示している。		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 地域の避難訓練へ参加、また運営推進会議で避難訓練の様子を見ていただき、地域の中で起こりうる災害についてお話していただいたり、避難方法についてアドバイスをいただいている。 (外部評価) 年1回、市全体の災害訓練が行われており、事業所では、地域の自主防災組織とともに参加している。又、事業所独自でも年2回、避難訓練を行い、消防署の方の協力をいただいている。地域の方から、「何かのときは協力する」と声をかけていただいている。		
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) ケアプランにて状態報告は行っているがリスク等について説明はできていない。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎朝バイタルチェックを行い、体調の変化が発見できるようにしている。発熱等異常時には主治医へ相談・ご家族へ報告をしている。	※	日々、少しでも多く利用者様と関わり、いつもと違う変化をすぐ見つけることができる様努めていきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服されている薬の説明書をファイルしており、いつでもみられるようにしている。また、便秘薬について、利用者様の状態を見ながら、効きすぎているようであれば主治医に相談、用量等変更していただいている。	※	利用者様の中には「これ何の薬？」と心配される方もいらっしゃる。薬の効果を把握し、説明して安心して服用ができるようにしたい。
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事中に野菜を積極的に取り入れたり、間食でも寒天を利用してゼリーや冷たい牛乳を勧めてみる、毎朝ラジオ体操をして身体を動かす機会作りをしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後利用者様の状態を見ながら、洗面所へ誘導している。磨き残しがないか、義歯は取り外して磨かれているかをさりげなく確認し、不十分な点があれば責めないよう声掛けし磨きなおしをさせて頂いている。	※	拒否がある場合は無理強いせず、時間をあけ、声をかけたり、スタッフがかわりに義歯の手入れができるよう対応する。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的に法人内の栄養士さんをお願いし、メニュー表の確認・アドバイスをいただいている。また、入浴後はお茶や麦茶・温かいものか冷たいものかなど好みをお聞きし、好きなものを飲んで、水分が補給できるようにしている。	※	水分・食事共に無理じいせず、ある程度の量が摂取できているか記録し、把握したい。
			(外部評価) 食事の献立は、職員が立て、3ヶ月に1回程度、母体病院の栄養士にアドバイスいただいている。食事やおやつで水分が摂れるよう工夫されている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症に関するマニュアルを作成、配布している。また、ノロウイルス等は法人内の病院から説明や対処法について資料が配布されている。	※	夜間、歯磨き道具、コップの消毒が不定期なので、曜日等で決め、定期的に消毒ができるようにしたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 使用した調理用具やフキンはハイターで消毒をし、乾燥機で乾燥している。また、食材は肉・魚類は1日で使いきり、その他は賞味期限内に使用するようになっている。調理に携わる利用者様も手洗いのご協力をお願いしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) ホームの場所が国道より奥にある為場所は分かりにくい、玄関に花を植え、明るい雰囲気作りをしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 冷暖房等が効きすぎないように配慮し、季節の花・飾りを飾ったり、天窓の自然光が入るようにしている。		
			(外部評価)		
			天窓から自然の光が入っている。テレビの前や廊下等にソファを配置し、それぞれにくつろげる場所を作っておられる。利用者が書いた、その日の献立表を掲げておられた。		浴室、浴槽の段差等、利用者や職員の不便な点の改善についても、検討していきたいと考えておられた。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂の席はお一人お一人決まったところにあり、自然に席につくことができる。また、リビングでは色々な場所にソファを設置し、思い思いに座られくつろぐことができるようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項 目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			家具はご本人様の使い慣れたものをお持ちいただくようお願いしている。また、ご家族の写真を飾ったり、好みのカレンダーをはり、花が好きな方は花をかざられている。	※	面会時に御家族と写真を取り、自室に飾れるよう、おねがいしてみる。
			(外部評価)		
			居室には、たんすやテーブル、冷蔵庫等、それぞれがご自宅の馴染みのものを持ち込んでおられた。ご家族の写真を飾ったり、ご自分で書いた習字を掛けておられる方もうかがえた。		
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがなく、換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			掃除やシーツ交換に換気している。また、温度計を見ながら室温の調整を行っている。トイレは換気をしたり消臭剤を置いて臭いがこもらない様にしている。	※	無理強いせず、居室の換気をすすめ、自室清掃を行いたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			広々していないため手すりや枕などをたよりながら歩かれたり、歩けない方も職員が付き添い、歩行器を利用し、少しでも歩く機会を作ったり、車椅子の駆動ができるよう声掛けしている。	※	食事のテーブルが人によって高い方がおられる。また、浴槽の段差が高いので、歩行に不安定さがある方は少しご本人も不安があるように思う。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			個室の戸の色やのれんを変えたり、大きく「便所」と表示し、分かりやすくしている。また、様子をみながら何かを探されているようなら声掛け・付添し、その場へ行けるように配慮している。		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			玄関前や、物干し場で活動を促す。	※	男性の方へ外で大工作業などあれば支援したい。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者の ② ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	意向の分かりにくい方もいるが、御家族からのお考えも聞きながら、希望されていることを優先し取り組んでいる。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) 1 毎日ある ② ②数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	ほぼ毎日ある。作業を共にしたり、ゆっくり入浴支援をしている。また、ソファに座り、一緒にお茶を飲んで過ごすこともある。しかし、職員数が少ない時にはゆっくり過ごせないことがある。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	時折、作業を強く嫌がられることがあるので、その方のペースを乱しているのかと思う。しかし、スタッフが無理強いしないので、ほとんどの方が自らのペースですごされていると思う。また、時間にとらわれることなくゆっくりと生活していただいている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自発的に何かしようとされる方はおらず、外へでることを好まれないが、職員が誘導することで、作業へ参加され、作業することで表情がよかったり、はりのある感じを伺うことができる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出の希望があれば優先しでかけられている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	主治医・看護師との連携が取れている。主治医が月に1度往診にこられ、利用者様とゆっくり話をされている。また、利用者様の心配等があれば、その都度スタッフが不安に対応できる様声掛けをしている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が ② ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	その都度、ご希望にあわせて柔軟に対応できていると思う。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく (自己評価) 1 ほぼ全ての家族と ② ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会時は声をかけたり、ご家族から声をかけて頂いたり気軽に話せる雰囲気作りができていくと思う。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに ④ ④ほとんどない	こちらがお招きした際（運営推進会議など）や、小中学生のボランティアが来られることがある。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) ③ 3 あまり増えていない 4 全くいない	運営推進会議の開催当初よりは事業所の事を理解していただいていると思う。
98	職員は、生き生きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員一人一人に役割があり、生き生きと働ける環境作りをしている。しかし、休憩時間が取れないため疲弊している職員もいると思う。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	日常の作業も大切だが、遊びの場や、外出等で楽しむ機会がもっとあったらいいと思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) ③ 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	「夏みかんに入所してよく話しだした」と言っている。しかし、今年度は生活状態のご報告など、遅れることがあり、ご心配をかけたこともあると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)
(自己評価)
・自分の家族や自分自身が「ここで生活したい」と思い、アットホームで人間らしく暮らしていける場（人生最期の時を楽しく生活できる場所作り）づくりをしている。 ・利用者様お一人お一人がそれぞれの場面で活躍できる場、力が発揮できる場を作っている。 ・利用者様の能力に合わせてトイレ誘導やポータブルトイレを活用しながら排泄ができる様に支援している。 ・不安や心配をされることなく、安心して暮らして頂ける様、声掛けやコミュニケーションをとっている。